

「川・水辺」に人が集うまち。

倉松川を愛する会



私たちが水辺を守ります!

川沿いの土手や遊歩道がきれいに保たれている陰には、川の美化に取り組んでいる地域活動団体の存在がある。
倉松川と旧倉松落第二調節池で活動を続けている2つの団体を紹介する。

倉松川はかつての姿を取り戻しつつある

地元の新年会で「倉松川の汚れがひどい。何とかしよう」と声が上がったのがきっかけで、平成17年に結成されたのが「倉松川を愛する会」。当初は川の清掃が活動の中心だったが、現在は、川辺の動植物の育成環境の維持創生や市と協力して小学校の環境学習を支援するなど、さまざまな活動に取り組んでいる。

会長の内山裕幸さんは、「子どもたちに蝶の標本作りを指導したり、川に生息する生き物を一緒に観察したり、身近な自然について学ぶ授業をフォローするのが私たちの役目。特に蝶の標本作りは、牛島小3年生を対象に毎年開いています。桐材の立派な標本箱を使って作るので、子どもたちからも大変好評なんです」と話してくれた。

この日は牛島小4年生を対象とした「倉松川の生態調査」の授業。数日前に会のメンバーが仕掛けた網の中にテナガエビ、タナゴ、ヨシノボリなどがかかっているのを見つけた子どもたちが、「すごい!こんなに大きなエビが倉松川にいたんだ」と歓声を上げると、「タナゴを見てもらん。タナゴが捕れるということも川がきれいになってきた証拠なんだよ」と内山さんが優しく説明する。子



会長
うちやま ひろゆき
内山 裕幸さん

内山さんが自然保護に関心をもったきっかけは、身近で思いがけずジャコウアゲハの群れを見つけたこと。そこで倉松河畔に遊歩道を作り、蝶の森を整備して保護に努めてきた。今では20種類以上の蝶が生息する昆虫の楽園となって、地域の人たちに親しまれている。



どもたちのうれしそうな姿を見たメンバーたちからも、笑みがこぼれた。「目をキラキラと輝かす子どもたちの姿を見るのが私たちの活動のエネルギーです。倉松川が本当にきれいな川よみがえるためには、私たちの世代だけでは時間が足りないので、彼らにしっかりと受け継いでほしいですね」と、メンバーたちは子どもたちの顔を見つめながらほほ笑んだ。

季節ごとの花を楽しんでください



会長
たかの
高野 とし子さん

「都心ではご近所づきあいが減っているといわれますが、地域ボランティアに参加すれば孤独に悩むこともなくなるはずですよ」と語る高野さん。毎年10月にはメンバーが作った野菜を販売するバザー(コスモス祭り)も開催。

旧倉松落第二調節池を守る会



どうぞ、旧倉松落第二調節池に散歩に来てください!

一方、旧倉松落第二調節池周辺の遊歩道の除草や花の植栽活動を行っているのが、「旧倉松落第二調節池を守る会」。近くに畑を借りて家庭菜園を楽しんでいた仲間たちが中心となって、平成11年に結成された。

会長の高野とし子さんによると、「調節池のまわりが雑草だらけになっていて、自分たちでできることはないかしらと思ったのが会を作ったきっかけです。それから月に2回集まって除草を行うことにしました。やがて、会のみんなが花が好きなこともあって、さまざまな花を植えるようになりました」



川が増水した際に、水量を調整する役目を果たしている旧倉松落第二調節池。釣り場としても人気。

現在は、ポピーやラベンダー、アジサイ、コスモスなど四季折々の花が遊歩道を彩り、川辺を歩く人の目

を楽しませているが、毎年きれいな花を咲かせるには苦労もあるとか。



取材時にはポピーが満開だったが、これからの季節はマンジュシャゲ(9月)、コスモス(10月)が楽しめる。

「花が咲いたあとの作業が意外に大変なんです。花が終わった後は、まづ翌年時^まのために種を取り、その後、茎を刈り取って外に運び出さなきゃならない。でも、散歩している人から『いつもきれいにしてくれてありがとう』って声をかけてもらうと、不思議と疲れて吹っ飛びますね」

また、作業後はお菓子を持ち寄ってお茶会を開くのが恒例となっている。こうした仲間とのコミュニケーションも会の大きな楽しみだという。「悩みがあるとすれば、メンバーの高齢化が進んでいること。みなさんに喜んでいただくためにも、現在のメンバーともできる限り長く活動を続けていきたいと話してはいますが、今後は若い人にも参加してもらえたらいいですね」